

プリムラ山の会(通巻87号)2012年7月4日発行 発行人:大坪邦久
編集/デザイン:ミズノデザイン 発行所:東京都八王子市散田町3-38-6B
primula.ac@gmail.com http://primula.mizunodesign.com

Primula



プリムラ山の会

Primula 87

PRIMULA CUNEIFORIA BULLETIN



Contents

クーロワール	002
In A Shot (岡 孝雄)	003
87 号特集 雨でも素敵に登れる山	004
今更遅いよ 山行記録 その① 仁田岳南尾根～茶臼岳(小田 礼子)	005
リハビリ&背負子登山 (6 ヶ月～8 ヶ月) (市瀬 江利子)	010
24 年ぶりの富士山 (桜井 弘)	010
阿弥陀岳北西稜の登攀(佐藤 正俊)	011
積雪期のマイナールートも楽しいワン U [^] U [^] U [^] その 9	
茂倉岳北西尾根の巻 (初鹿 裕康)	014
爺ヶ岳東尾根山行(佐藤 正俊)	016
白馬岳主稜(平 真里)	019
谷川岳一ノ倉沢・烏帽子沢奥壁	
南稜、中央稜の登攀(佐藤 正俊)	020
今シーズンの山スキー (後編) (北原 浩平)	023
なほみさんのいつまでやってんだクライミング日記	
ちょっと病気編からの復活編 (3) (水野 奈保美)	030
山行一覧(2011 年 12 月～2012 年 3 月)	034
編集、後記。	035
Google Web アルバム (Picasa) の使い方	036

クーロワール Couloir

ー山行の青い鳥は?ー

メーテルリンクの「幸せの青い鳥」は山の中にも居るのだろうか？

若い頃は何かを求めて山行を繰返していたような気がする。若さと山に対する憧れが動機となり、槍や穂高や富士山に登り、冬山の厳しさも体験した。

朝焼けに染まる白馬三山の絶景や残雪期の北鎌尾根からの景観に疲れを癒され、冬の八ヶ岳縦走では強風と霧だけが記憶に残っている。白峰三山や荒川三山では南アルプスのスケールの雄大さを実感し、西穂から槍の縦走路は岩の世界への憧れを一層強くした。重荷と急坂に喘ぎ、何でこんな苦しい思いをしなければいけないのかと自問する一方で、山の景色や登頂の喜びは何物にも代え難い充実感を与えてくれた。下山時には決まって次は何処に登ろうかと考えていたものだ。

縦走、アルパインクライミング、フリークライミング、氷瀑登攀、山スキー、沢登りやトレールランなど同じフィールドでもパーソナリティや好みに応じて山の楽しみ方は千差万別で様々であっていいはずだ。より高いレベルを目指し、自らの能力を高めていく努力も必要である。また最近はウェアや登山用具の進歩も著しく、誰でも手軽に登山を楽しめるようになっている。実はお金と暇が一番の必需品ではあるが…。

我々は何を求めて山に登るのか。何物にも代え難い充実感はどうしたら手に入るのか。あと何年山に登れるのか分らないが、行きたい山はドンドン増えている。「幸せの青い鳥」の居場所は定かではないが、仲間との絆の重要性を深く胸に刻み、山に対する畏敬を忘れず、自分なりの憧れの山を探し求め、他人に迷惑を掛けず恨めとお詫びの無い山行を積み重ねていきたい。

In A Shot

by Takao Oka



新緑の一ノ倉

久しぶりに数名の会員と出合いまで同行した。先を行く登攀組は早く、息を切らしてついていくが、暗い中一人で行くのと違いペースも上がった。

今年の雪解けは遅く、除雪の跡がまるで雪壁のように残りよい被写体となったが、雪面の汚れは感じよくない。マァー、これが一ノ倉さ!!

雪崩で倒され運ばれた大木が、顔を出している。大きな雪崩が発生したに違いない。警備隊の方の話では、積雪量は平年並だが寒気の入り込みが多く、5月に入っても雪が降り、雪解けが進まない、との事だった。

この時期としては珍しく、スッキリとした透明感ある大気!芽吹いたブナの新緑、汚れているが残雪の白、撮影

条件はすこぶる良い!!ただ奥壁の岩場は冬の名残が残り、褐色は頂けない。デモこれも一ノ倉!!

登攀組は早くもテールリッジに着いたようだ。意外に空いている岩場に気をよくして快適に登っていくことだろう。

ユーノ沢まで行ってみることにした。期待していた滑滝はマダマダ雪ノ下で、水量豊かなヒョングリの姿は、暫く時間がかかりそうだ。次の機会を楽しみにしよう。

「ブナのしずく」は、冷水が静かに流れ落ち、気の遠くなりそうな贅沢な時間!!を過ごす。もちろん、ペットボトルに詰込んだのは言うまでもない。

87 号特集

Special Issue
雨でも素敵に登れる山

和賀山塊堀内沢

印象的な雨の山は、やはり堀内沢。3日間台風並の大雨に閉じ込められたこととか、誰かが転落して流されたこととか、沢の壁面の木にザイルで固定してビバークしたこととか、いろいろと印象深い。やはりもう一度行かないとまずいかな。(K)

尾瀬のお花畑

雨の登山で一番印象に残っているのは8月の夜行日帰り単独尾瀬山行。至仏岳の山頂は雨と霧で何も見えず。尾瀬沼を横断し小川と化した登山道を登り燧ヶ岳山頂へ、やはり何も見えず。小雨の中御池へ下る途中の湿地帯で霧が晴れ、辺り一面は黄色いキンコウカの花が咲き乱れ、まるで神々のお花畑の様だった。会津駒まで行くつもりだったが、雨が激しくなったので御池で入浴後、午後1時過ぎのバスで帰路についた。(S)

尾瀬の湿原

10月頃尾瀬の湿原に行った時、実際雨だったのですが木道で歩きやすい雰囲気もよかったですよ。まだ数えるほどの山にしか行っていないので、それ位しか思いつきません。(汗)(O)

梅雨時の箱根

昔、飯豊の夏山合宿で「雨具着たって、蒸れてどうせ濡れるから」(本当は雨具をぬらしたくなかった(*^_^*))と思い、短パン半袖で雨の中歩いていたら、「雨具持っていないのか」と心配された。でも、濡れていない服があれば、着替えれば済む話だ。

さて、雨でも素敵に登れる山、霧が出ている歩きやすい登山道は結構幻想的で好き。梅雨の時期の箱根の山は、帰りに温泉に入って登山電車で紫陽花を觀賞しながら、ロマンスカーでビールを飲みながら帰れるのでさらに好き。(H)

小川山レイバック、もつランド、…

まだプリムラでも日が浅いとき、雨具はもっていないから着ない、濡れたら着替えればいいっていうHSの発言には目からウロコだった(低体温症にならなければね)

山ではないけど、小川山なら小川山レイバック、瑞牆ならカサメリ沢の「もつランド」エリア、不動沢の岩小屋ルーフなど。ルートの上が庇状に張り出しているのも雨でも登れる。小川山レイバックはかなりの雨でもオッケ。ビレーヤーが滝に打たれる修行僧みたいになるけどね。(もちろん雨具は着用します:M)

アルプス系ではなく低山

雨でも素敵となると、やっぱり、アルプス系ではなく、低山ですね。定番だけど、尾瀬とか、ぶな林のある白神とか。丹沢の沢登りの下山の際、雨の中、足元と頭上の新緑が本当に綺麗で、幸せな気持ちで下山したのを思い出しました。(E)

八ヶ岳の森

八ヶ岳。苔の森の雰囲気が良い。梅雨時はちょうど花の時期に重なっていてさらに良い。(雨でなくても)八ツの森が好き sadece…。(T)

#

んだ新鮮な空気を胸一杯吸う。暗闇の中、しばらく星空を楽しんだ後、振り返ればテントは暖かい光で満たされている。すっかり雪山のテン泊に魅了された夜だった。早々にシュラフに潜ると、ラジオから流れてくる曲に耳を傾ける間もなく、いつの間にか寝てしまった。

2012/1/1 (快晴～午後から雪)

快晴。アイゼンを装着してから7:00過ぎにテン場を出た後、すぐにルート確認を行った。初鹿さんと佐藤さんと話し合ったあと、またもや道なき道、ダケカンバの上を進んでいくことになった。枝と枝の間に足を置くが、次の枝に移る時、今度は枝が引っかかり、足を上げられない。もがいている内にバランスを崩して転倒する始末。同じ事を何度も繰り返すうちに、小さなルンゼに合う。横に広がる風景を楽しみつつ歩いたルンゼも一時で終わり、すぐに雪がへばりついた岩とダケカンバだらけの急斜面となった。ダケカンバは朝の光でツヤツヤと輝いていた。生命が溢れているのを感じる。果てしなく続くように思われたダケカンバ地帯を抜けると、突然視界が開けた。気がつけば、仁田岳の頂上直下にいた(8:50)。

初めて見る仁田岳は、頂上からふもとまでのびやかな線を描いていた。東を望めば堂々とした富士山の姿が見える。少し右に目を移せば、駿河湾と伊豆半島までが見渡せ、畑薙湖は既に遙か遠くにあった。元旦早々こんな素敵な景色を拝めて心が浮き立ったが、はやる心を抑えて登る事に集中した。9:40、ようやく仁田岳頂上(2523.8m)に着いた。やっぱり高いところは気持ちがいい。

段々風も強まり天候が崩れてきたので、早々に分岐点のある喜望峰へ向うことにした。10:50喜望峰に到着。ここで、今後の予定を決めることになった。ここから光岳まで片道5時間にかかるが、雪の状態が分からないのでそれ以上かかるかもしれないとの事。多分、みんな行きたい気持ちはあったかもしれないが、何せ私のペースが遅かった。結局、初鹿さんは当初の予定であった光岳往復は断念し、そのまま茶臼岳に向う決断を下した。

雪も深くなり、膝上あたりまでもぐってしまうの

で、喜望峰を少し下った辺りで初めてワカンを装着した。何度も転びながら必死に二人の姿を追った。13:10茶臼岳頂上(2604m)。既に天候は荒れ始め、山は灰色の世界にかわりつつあった。山の天気は変わりやすいというけれど、まさにこれがそうなのだ。体力も技術も、そして経験も何もない自分が山中にいることを恐ろしく思った。早々に茶臼小屋へ向った。

茶臼小屋には14:00過ぎに到着。既に4～5名の先客がいたが全員単独のようであった。小屋の中にテントを張り、やることもないので16:00には夕食をとることにした。最後の夜のため、残った食糧はすべてクリームパスタの中に投入した。佐藤さんが1時間もかけてババロアを冷やし固めてくれたのに、お願いして暖めて飲んだ。気分を害さないか心配したが、寒いので仕方がない。最後の夜は、小屋泊のため静かに更けていった。

2012/1/2(雪～曇り)

今日は下山日。なんとなく緊張感が緩み始めていたのに気づき、気を引き締め直した。

08:40 出発

10:30 横窪沢小屋着

12:10 ウソッコ沢小屋着(手前でアイゼンを外した)

13:40 ヤレヤレ峠着(1080m)

14:00 畑薙大吊橋(長さ181.7)着(960m)

15:30 畑薙第一ダム駐車場着

00:00過ぎ 帰宅

最後に。山らしき山を歩いたことのない自分を雪山に誘ってくださった初鹿さん、後ろでずっと激励を飛ばし続けてくれた佐藤さん、本当に有難うございました。まだろくに歩けないのに、文句一つ言わず、お二人の沢山のフォローのおかげで思い出深い雪山登山(少しバリエーション?)となりました。

~~~~~

2012.3の記録に、追加修正あり(2012/6/27)。

# リハビリ&背負子登山 (6ヶ月~8ヶ月)

## 市瀬 江利子

10月の出産後、11月にマラソンに出たものの、正月明けに体調を崩して入院。今回ばかりはやばいかも、と山でも感じたことのない、命の危機を感じる。偶然にも?M氏の遭難の一報が入ってからわずか4時間後、足腰が立たなくなり頭痛と嘔吐で倒れ、そこから7日間にわたって7回も倒れ、原因がわかったのは3度目の救急車で、ようやく脳外科に運び込まれてからでした。

MRI診断の結果、ちょっとした?くも膜下出血らしき跡が...2つの病院でありとあらゆる検査をし、しかし、どこも出血しそうな危ない血管は見つからず、最終的に某大学病院脳外科にて、何をしても大丈夫でしょう、とお墨付きをもらったのでした。いったいなんだったのか?M氏のいたずらだったのかも、と真剣に思ってしまった。そんなこんなで、恐る恐る、まずは、簡単な雪山ハイクだったかと、はっちゃんにお願いして黒斑山を選んでもらったのでした。

### 3月26日 上信越・黒斑山(浅間山外輪山) 雪山ハイク

メンバー:初鹿、市瀬

コースタイム: 車坂峠(9:00)--トーミの頭(10:45)--黒斑山(11:10-11:30)--車坂峠(13:00)

子供から離れて初めての遠出。1年ぶりの雪山です。って言ってしまえば当たり前ですが。

車坂峠から登る黒斑山。簡単に登れて、しかも雪山っぽさを短時間で味わえるかなりお勧めの山です。稜線にあがった時に、正面に現れる浅間山に感激します。この日は天気も良く雪山を堪能。やっぱり雪山はいいです。

登りは表コース、降りの中コースで下山しました。帰りは小諸温泉「常盤館」で入浴。ここは、どうやら「登山電車」で登る天望露天風呂として有名な山です。少しお値段高めですが、内風呂も広々としていて、露天も展望良くて良かったです。平日だけあり、貸しきり状態でした。ただし、登山電車って言うほどのものでもないですが...かなり手作り感いっぱいの感じです。



黒斑山から見た浅間山。  
浅間山斜面を滑れたら気持ちよさそう...

### 4月16日 上越・神楽峰 山スキー

メンバー:初鹿、市瀬

今回も子供なしでの山行。

おなじみの神楽スキー場。快晴の中、半袖になり、シール登行。久々に汗を流し気持ちが良かった。今回は、第五リフト上から神楽峰へ、そこから田代側に滑り降りた。雪は重くて滑りは快適ではなかったけれど、まさか今シーズン、スキーができると思っていたので、とにかく嬉しい。ゲレンデも何本か滑り、楽しかった反面、筋力の無さを痛感しました。トレーニングしなければ...

### 4月28日 房総・富山 背負子ハイクNo.1

メンバー:市瀬、平、他2

コースタイム: 伏姫ノ窟入り口(10:20)--富山頂上(11:30)

前から行ってみたかった千葉の山。アクアラインを使って行ける、おそらく家からは奥多摩よりも丹





富山山頂（富士山じゃないよ）

沢よりも近い山。そんなことで、GWの混雑した高車で渋滞にはまるより、千葉の山は穴場ではないかと提案したのでした。同行の平ちゃん＆会社の人には、こんな時しか頼めないの、贅沢にも平和島まで来てもらう。この日はGWの初日。思ったとおりアクアラインも館山自動車道もすいている。鋸南富山ICを降りてわずか10分程で伏姫ノ籠窟前のパーキングに到着した。ここにはトイレもあり、子連れには丁度いい。

新緑が綺麗だね、なんていいながら登り始めるが、暫くすると、だんだん傾斜が急になる。この日は結構蒸し暑くかなりの汗をかく。富山は2月のスイセンの時期がお勧めらしく、連休以降はきっと蒸し暑くあまり快適でないと思われます。

下から鞍部まで約1時間。鞍部から頂上までは約10分。初めての背負子登山には丁度いい行程でした。頂上は広く、展望やぐらがあり海を見渡せます。

下りは平ちゃんに背負子を背負ってもらいました。そして、近くの岩婦温泉で入浴。GWだとい



平ちゃんに背負ってもらい、気持ち良かったのか、この先ほぼ寝てました。

うのに貸切でした。硫黄が結構きつかったので子供が大丈夫か?と思ったのですが全く大丈夫でした。おむつの取れない子供がいる時はやはり貸切りが気兼ねなくていいです。帰りは我が家で軽く酒盛りをしてお開きです。

## 5月5日 奥秩父・飯盛山 背負子ハイクNo.2

メンバー：市瀬、他4

コースタイム：平沢峠(13:00)～飯盛山(14:15)

連休最後、家族で遠出をする。八ヶ岳付近の山を検討の結果、平沢峠から飯盛山へ往復することにした。車での長旅の後、背負子の中でおとなしくしてくれるか心配だったが、子供は終始ご機嫌だった。やっぱり、自然の空気は気持ちがいいみたいです。

平沢峠には初めて来たが、ここからの八ヶ岳の展望は素晴らしく、ここだけ観光で来てもお勧めのスポットだった。パーキングは広く、トイレ完備で、夏場には売店もあるらしい。今日はかなり風が強く心配したが、上部は南アルプスや富士山を見ながら草



後方に見えるのは八ヶ岳連峰



頂上でにっこり



おそうじ小僧と一緒に



ぐずりっぱなしでして、ごめんなさい

原を歩く感じで、とても気持ち良く登れた。頂上はやはり風が強かったので、鞍部にまで降りてお弁当にした。

こんなに簡単に登れて、しかもこんなに景色が良いなんて、背負子登山にはうってつけの山でした。他にも何組か背負子登山者とすれ違いました。かなりお勧めです。

### 6月3日 高尾・高尾山 背負子ハイクNo.3

メンバー：初鹿、市瀬、他3

もともとはハイキングに行く予定だったが、天気が悪く中止にした。ところが、朝から天気が回復の兆しがあり、そこへ、はっちゃんが家族と一緒に高尾山に行くことと連絡が入る。既に11時になろうとしている。今から準備しても1時間で家を出るのは難しい。でも、高尾は最近環状線が通ったので、高速に乗ってしまえば近いはずだ。迷ったあげく、結局、子供を連れて行くことにした。

待ち合わせは13時。急いで準備。ミルクにおむつ、離乳食におやつ。着替えて、あとは、背負子だ。出かける前におむつ取替えて、ミルク飲まして、自分の準備して、なんてやっていたらあっという間に1時間たってしまう。なんとか12時過ぎには家を出る。

高尾までは渋滞もなくほぼ13時過ぎに高尾山ICに到着した。しかし、ここで、痛恨のミスをして、旧道へ入らないといけないうところを、新道?のトンネルに入ってしまう、戻るまでかなりのロスをしてしまう。こんな時古いナビは役に立ちません。それでも、なんとか13時半過ぎに到着。お待たせしました。

ここから、はっちゃん家族と私達はロープウェイで上を目指す。はっちゃんは一人で走って登ってい

く。実は高尾山には子供の頃に行ったきり、記憶に残っていなかったもので、今回初めて、杉の巨木のあふれる深山で、色んなコースがあることを知る。こんなに近くていい山だったのだと、認識を改めました。帰りの歩きは結構足に来る傾斜でした。下山後、高尾の湯「ふろっぴい」にて入浴。乳児OKでした。

### 6月17日 富士山外輪山・パノラマ台 背負子ハイクNo.4

メンバー：初鹿、西本、市瀬、他1

コースタイム：登山口(12:00)→パノラマ台(13:15頃)

今回、はっちゃんと西本ちゃんには悪いことしてしまいました。朝から子供がちよっと熱っぽいかなあと思ったのを押して出発してしまい、やはり調子が悪かったみたいで、背負子に乗っている時意外は、なんだかぐずりっぱなし...行きも帰りも車の中は大変でした。

診察の結果、この時期の子供特有の突発性発疹という感染症らしく、翌日から40度近くの高熱を出してしまいました。背負子に乗っているときは気持ち良さそうだったんですけどね...

この日は雲が出てしまい、綺麗に見えるはずの富士山の展望もいまいち。登山道は歩きやすく、気持ちのいい登山道です。降りの背負子のはっちゃんが担当してくれました。

帰りの温泉は登山口すぐそばの上九温泉「山田屋」の日帰り入浴。以外にも?富士山も真正面に見え、通行の車からも見えそうな、あけっぴろげな感じの露天が良かったです。入浴料800円。乳児OKでした。西本ちゃん、これに懲りずまたよろしくお願ひします。



## 24年ぶりの富士山

桜井 弘

日程:2012年4月7日～4月8日

メンバー:桜井

## 【コースタイム】

4月7日:富士山駅(22:13)--中ノ茶屋(23:40)

4月8日:馬返し着(0:45)馬返し発(3:30)--佐藤小屋(6:11)--8合目(8:46)--佐藤小屋(10:12)

--馬返し(12:10)--富士山駅(14:40)

プリムラ山の会に入会して5か月がたち、やっと登山靴を買う事ができ、さて雪山へ行くとなるともう4月。確実に雪があつて、長く歩ける所として、富士山を思いついた。

今回のルートは、24年前に歩いたルートで、以前と比べてどれだけ歩けなくなっているかの確認もしたかったのである。

行きの高速バスの前の人は、さきいかをつまみに日本酒を飲んでいる。バスの中でそれはないだろうと思いつつ、自分は大好きなビールを我慢し、久し振りの休肝日となった。

富士山駅に到着後すぐに歩き始める。当然歩いている人もいず、ときおり野良犬の遠吠えが聞こえるとびくびくしてしまう。馬返しで1時間位仮眠するつもりが、つい3時間も寝てしまう。

馬返しのすこし先から雪と氷が出てきて、アイゼンを使用する。3合目から4合目の間では、歩きながら寝てしまう有り様であった。20年前は、そんな事はなかったのにと、悲しくなつて

しまう。佐藤小屋周辺には、テントが6張り程あった。5合目より上部は、20年前と比べて、雪の量が多く、小屋の山側は、雪で埋まっており、登山道は見え、アイスバーンになっている。

8合目に着く頃には、9時近くになっていて、帰りの事を考えて、もういいかなと思い、下降を始める。

富士山駅に着き、富士山をながめながら飲むビールは最高であった。

# 阿弥陀岳北西稜の登攀

佐藤 正俊

日程:2012年4月7日(土)~8日(日)

メンバー:小堀、佐藤

[行程]

4月7日:4:00東京発、9:00テント設営後、2600mまでトレース付け

4月8日:3:30出発、5:50下部岩稜の登攀、8:50上部岩壁の登攀、9:30登攀終了、11:50テント着、13:00美濃戸山荘着

## 1. トレース付け(4月7日)

今シーズン4本目の冬季登攀は阿弥陀岳北西稜となった。阿弥陀岳では難しいルートらしいが、尊敬する小堀さんにアイゼンを付けた岩登りがうまいネ、などとおだてられホイホイとお供する事となった。インターネットによると上部岩壁が核心のようだ。

朝4時に東京を出発し7時前に美濃戸口に到着する。チェーンを付け美濃戸山荘までの雪道アタックを試みるが、やまのこ村すぐ手前で敗退し、雪と氷の林道の中で車が立ち往生してしまう。小堀さんに押しってもらうが中々脱出できない。すると通りすがりのお兄ちゃんが車を押してくれて、なんとか雪道から脱出する。とても親切で力持ちの素晴らしい青年だった。そして車はすぐ脇の側道に止め午前7時10分に歩き始める。歩荷訓練のためリュックは水4リットルも含めて約28キロ、チョット重く感じる。

南沢経由でテント場には9時過ぎに到着し、10時10分トレース付けに出発する。北西稜手前の大滝まではトレースが着いていたが、その先にトレースは無い。左側の稜線から取付き、尾根を左に巻くように登行する。雪が深く傾斜も急で今シーズン最も苦しいラッセルとなる。北西稜取付き手前の標高2600mまでトレースを付け、ルートは間違い無さそ

うなのでテントに戻り、早めの夕食と気楽な祝杯を挙げ就寝する。

後日、都連盟救助隊の臼井隊長に聞いたところ、手前の滝は摩利支天大滝で八ヶ岳でも一番難しい水瀑らしい。来シーズンは南沢大滝と一緒に是非チャレンジしたいナ〜。

## 2. 阿弥陀岳北西稜の登攀(4月8日)

翌日は厳しい冷え込みの中、午前2時に起床し出発準備に取り掛かる。手も足も凍えて感覚が無くアイゼンの装着にも手間取る。気温は氷点下16℃で真冬と変わらない。風が無いだけマシだと好いように解釈し、午前3時半に出発する。

満天の星空と月明かりの下、昨日付けたトレースを辿り、6時前に下部岩壁に到着する。思った以上に快調で、なおかつ快晴無風の絶好のコンディションである。夜明けとともに北西稜核心の岩峰も薄いピンク色に染まり、横岳の岩壁も朝日に映えている。大同心の岩壁も迫力満点だ。素晴らしい景色に登攀意欲もモリモリ湧いてくる。

お互いにロープを結び、1ピッチ目のゆるい岩稜は小堀さんがリードする。ビレーしながら小堀さんの写真を撮るが最近はずルベの交互登攀も体力的にあまり苦しくなくなってきた。2ピッチ目は佐藤





朝焼けの阿弥陀岳

がリードし、ほぼ垂直、5m程の小岩峰を正面から乗り越す。ビレーポイントが無く乗り越した後も5～6m以上ランナウトするが、慣れて来たのか最近はまだあまり怖さを感じない。30m程ロープを伸ばし安定した岩角でビレーを取る。5ピッチ目の小堀さんのリードが終わると上部岩峰まで半ピッチに近づく。下を見ると後に4人組のパーティも登って来る。

6ピッチ目の痩せて急な岩稜は佐藤がリードし、岩峰基部で初めてペツルのボルトで安定した支点を取ることが出来た。岩峰基部を右に回り込むと適当な支点がなく、下部のダケカンバまで降りて支点をとる。7ピッチ目は小堀さんが岩場の下部でピンとボルトで2ヶ所ビレーを取り、岩と草付き交じりの悪い垂壁を稜線上までロープを伸ばす。相当苦戦したようだ。8ピッチ目は佐藤がリードしほぼ垂直のナイフリッジの岩稜を核心の基部まで登り、安定したアンカーボルトでビレーする。9ピッチ目は小堀さんが岩壁基部を左にトラバースしたあと垂直

に直上し、やはり安定したアンカーボルトでビレーする。

いよいよ10ピッチ目が核心である。佐藤が右に7～8mトラバースするとほぼ垂直のディエードルのコーナーにピンが3～4本連打されている。ピンにクイックドロウを掛け、このルートで初めてA0の連続で5mほどの高さを強引に登り切る。最後は右側のカンテに手を伸ばし右手一本で体を無理やり引き上げ出口に辿り着く。そして出口上部のアンカーボルトで小堀さんをビレーする。

11ピッチ目はそのまま雪壁を30mほど直上し、アンカーボルトのビレーポイントで登攀終了となる。ロープを外し、およそ150m登ると阿弥陀岳本峰手前のピークに飛び出し終了点から約30分後の午前10時、純白の阿弥陀山頂に到着した。

山頂は見渡す限り遮るもののない360度の絶景で、北アルプスの槍、穂高もはっきり見える。雲一つない無い快晴の青空は紫外線が強すぎて蒼黒く見え



登攀する堀さん



大同心

ており、この素晴らしい光景を、貸切りで楽しむことが出来た。昨日降った小雪のお陰で、山頂周辺はバージンスノーに覆われている。誰も踏むことの無かった雪の山頂は、北西稜の完登以上に嬉しさが感じられる。

下山を始めると北陵や縦走路を登ってきた登山者ともすれ違うようになり、左手に見える阿弥陀岳北陵には豆粒ほどの大きさの登行者が何人も何人も列をなしていた。機会があれば、北稜や南稜、中央稜の登攀も面白いかもしれない。

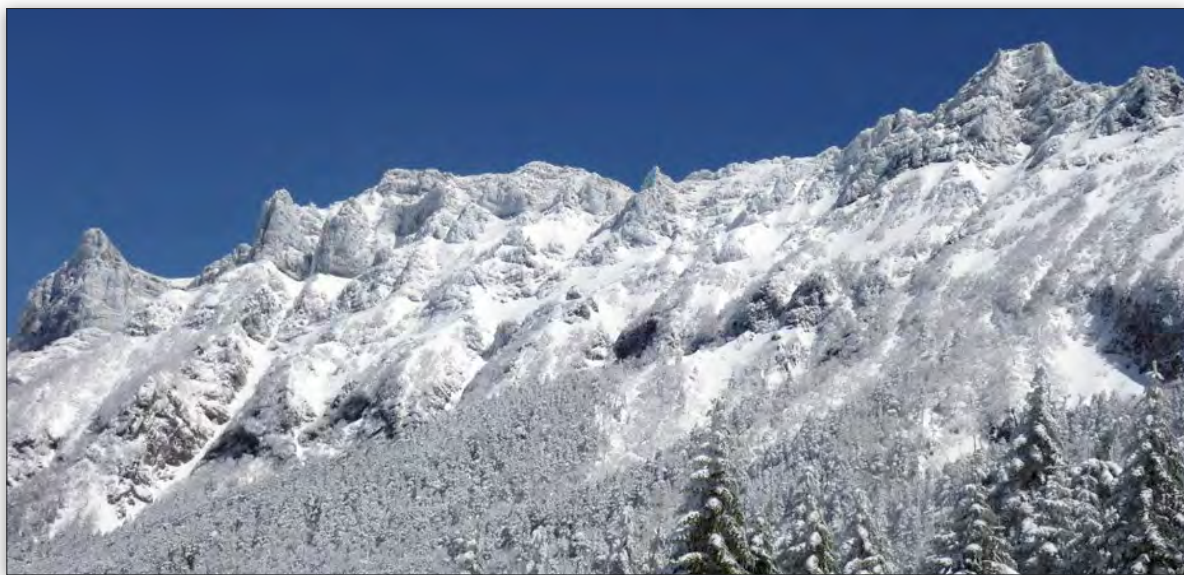
テントを撤収し南沢を下りながら振返ると、今日登った北西稜がすっきりとしたその姿を見せてお

り、小堀さんと佐藤の登ったトレースが微かに確認出来た。

### 3. 感想

恐らく今シーズン最後の雪稜登攀も快調にこなすことが出来、快晴無風の絶好のコンディションの下、これまでに無いほどの素晴らしい眺望も満喫出来た。

朝日に輝く北西稜を完登した記憶を支えに、これからも驕ることなくより多くのルートに登ってみたい。



横岳



# 積雪期のマイナールートも楽しいワン U<sup>^</sup>E<sup>^</sup>U その9

初鹿 裕康

## －茂倉岳北西尾根の巻－

日程:2012年4月21日～4月22日

メンバー:小堀、初鹿

【コースタイム】

4/21:晴 公園(9:35)--ダム(10:27)--取付(10:57)--稜線(11:26)  
 --下の壁(15:41)--ナイフリッジ(16:35)--上の壁(17:24)--国境稜線(19:09)--茂倉岳(20:13)--B.P(21:39)  
 4/22:曇 (8:22)--土合P.A (12:46)--公園(13:10)

日曜日は絶対天気が悪いので、ヘッデン点けても、国境稜線まで抜ける意気込みで入山。

万太郎谷方面の分岐を指導標通り茂倉岳方面に進むと、トレースもなく雪の上を歩くようになるが、結局除雪してある万太郎方面の道とまた合流、指導標直しておいてほしい。

夏は駐車場になる所から切り開きを茂倉沢沿いに登っていくと小さな取水ダムに出る。ここの下の雪上を渡り、北西尾根に向かって正面の広いルンゼを登って行く。最後ちょっと雪が切れていたが、なんとか稜上に出る。雪と藪を交互に登っていく。途中上の方でガサガサいうので見上げると黒い影が去って行った。ゲ、熊!! 躊躇しながら登る。上に行ったらでかい熊の足跡が縦横無尽についていた。気を取り直して、しばらく行くと、急なブッシュの登りになる(最初の岩場)。ブッシュをつかみながら岩場を避けて登って、上部のナイフリッジに出る。ザイル出そうと小堀さんが言うので、ザイルを出して小堀さん先行するが、やっぱ、いらなかっただつて。確かに登ってみると何ともない尾根ですが、写真に取るとそれなり。

もう核心は終わりかと思っていたが、岩場の左側を登らなければならない箇所が出てきた。ブッシュを掴んで登ることは出来るがかなりザックが邪魔。ザイルを付けて50m登るとやっと雪稜が続くように

なった。しかしここから国境稜線までが長かった。途中でヘッデンの出番になってしまう。天気も若干崩れ気味。時折ガスが出てくる。国境稜線から茂倉岳はわかに履き替えて登るが、雪の質が悪く歩きにくいことこの上ない。時たまガスが晴れる時に、見える茂倉岳は遠い。茂倉岳の標識に着いた時はうれしかった。避難小屋の標識に従って下っていくが、ガスが出ているのと暗いのでいつまでたっても見つからず、風が強く吹く中、テント設営となった。かなり脱水気味なので、まずは水を飲んでからビールで乾杯。身体に染み渡る。明日は下るだけだと思いきや、悲惨な明日が待っていた。

夜中は風が収まっていたが、朝はまた強風。下からの風でテントが持ち上げられそうなので、お湯を沸かすことも出来ぬまま、朝飯抜きでテント撤収。テントのポールは思っきり曲がっていた。時折出てくる雪の下の夏道を頼りに、アイゼンを履いて下っていくが、かなりの強風。風の切れ目がなかなか来ない。ちよつとの隙を縫って、次のブッシュ帯へ急ぐ。まるで「だるまさんがころんだ」状態。風速30m天気は砂塵ってところかも。3回ほど風にあおられ飛ばされる。体重軽かったら飛んで行ってしまうかも。下の雪が堅雪でないのが、まだしもの救い。風が強いので沢に下ろうかという小堀さんの甘い誘いを振り切り、何とか樹林帯に逃げ込む。

結構長い時間経ったように思うが、2時間程だったか。あとは夏道沿いに下って行くが、最後楽をしようと考えて左の雪面を下って行ったら、土樽P.Aの近くに出てしまった。結局P.A経由で駐車場に戻る羽目になってしまった。でもこの方が早かったかも。

雪が思ったより少なかったため快適な雪稜とならず、上部はウインドクラストで歩きにくく、結構痛い目に合ってしまった。それにしても、茂倉岳避難小屋なんて見つからなかったかなあ。でも、見つけてたら、



もっと上部にいたので日曜日もっと痛い目に合っていたかもねえ。

### 一爺ヶ岳冷尾根 敗退一

日程:2012年5月4日～5月5日

メンバー:初鹿、佐藤

【コースタイム】

5/4 曇/雨 大谷原(5:31)--1971mP(11:47)--B.P(12:35)

5/5 雨/曇 (8:58) --1971mP (9:25)--堰堤(11:29)(11:48)--大谷原(12:30)

かなり荒れた天気の日3日に自宅発。途中から天気回復してきた。初日は大谷原で車中泊。翌日早く起きられるので賢明かも。冷尾根は大冷沢の右岸の林道を進む。途中から小冷沢の右岸となり堰堤を何個か渡っていくと最後にデカイ魚道付きの堰堤にぶち当たる。魚道の脇を登っていくのだが結構スリリング。何とか上に出て裸足で徒渉。沢がS字型になっている

手前を登っていくが、雪というより藪。途中小熊2匹発見。絶対近くに親熊がいて見渡すと遠くからこっちをじっと見ていた(怖)。1971mPまでは藪やら雪やら歩きにくい。1971Pからは雪稜となるが、すぐにいいテン場適地となる。上部はガスついていてまいち悪い。テントを張ると同時に雨が降ってくる。昼寝、宴会、就寝。夜中かなりの強風、テントがひしゃげるが、まだ、下から風が巻き込んでこないの茂倉よりはまし。夜半いったんおさまるが、3時頃に又荒れだす。佐藤さんがトイレに行って戻ってくる。「テントのポールが折れている。今日は下山ですね」とかなり意気消沈してシュラフに又潜ってしまった。結局8時ころまで天気は回復せず、下山となる。

上部の様子は下から見た限りでは、もう少し雪が多くないと厳しいかもしれない。5月では遅いかもね。



# 爺ヶ岳東尾根山行

佐藤 正俊



山頂の佐藤

日程:2012年4月21日(土)~22日(日)

メンバー:平、小田、佐藤

[行程]

4月20日:21:00佐藤車で池袋発、道の駅「安曇野松川」でテント泊

4月21日:6:00道の駅発、7:05鹿島山荘、12:45P3、P3上部でテント泊

4月22日:5:20発、8:40爺ヶ岳、10:50テント場、13:40鹿島山荘

## 1. 道の駅「安曇野松川」泊(4月20日)

当初の2人に小田ちゃんに加わり、オダマリ佐藤トリオが初バリエーションルートに挑戦した。同じ3人組で臨んだ3月の赤岳は快晴、無風の好条件で無事登頂を果たしたが、今回は北アルプスの名峰爺ヶ岳の東尾根で、しかも天気予報はあまり芳しくない。不安と期待が入り混じる中、定時に池袋芸術劇場前に集合し、3人元気に出発する。

西池袋インターから首都高速に入り中央高速を北上、約2時間半で「安曇野松川」に到着する。人目を避けたレストハウス裏の芝生にテントを張り、お約束の宴会も始まる。最高のテン場だが自動販売機の「真実の口」が時々不気味な唸り声を上げている。

宴会は盛り上がる。しかしながら明後日は荒天の予報である。出来れば明日中に山頂を往復するつもりで出発することとし、午前1時頃、就寝する。

## 2. 東尾根のピーク3まで(4月21日)

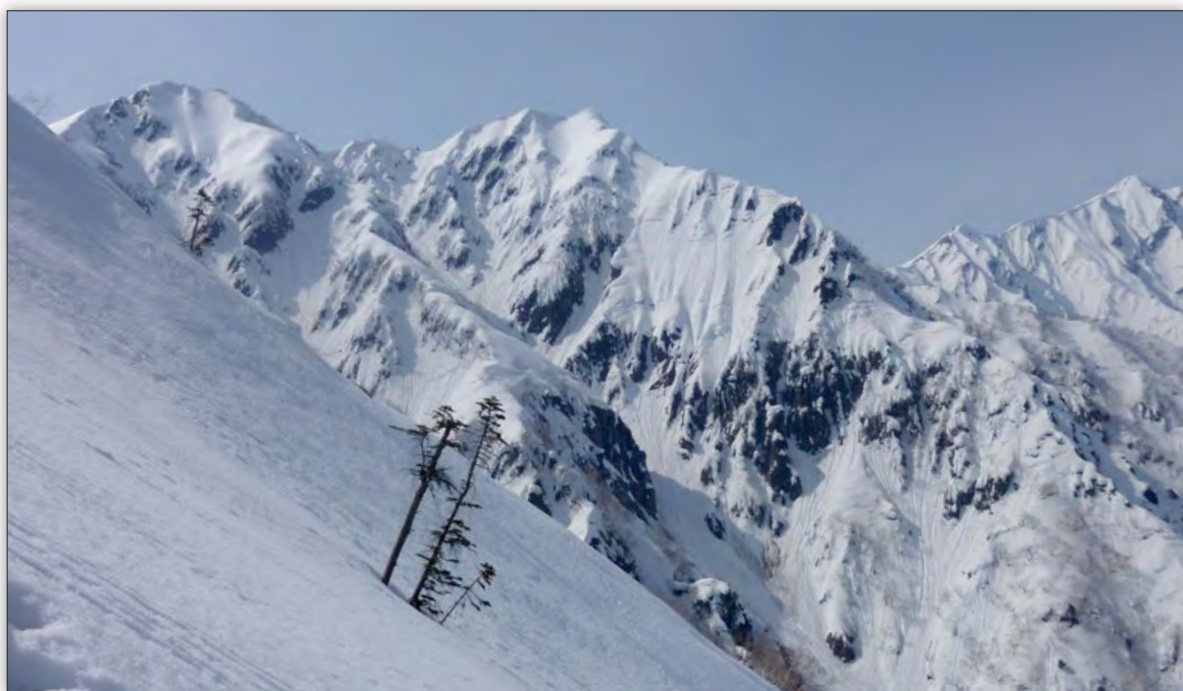
翌朝は5時に起床し、7時頃、鹿島山荘に到着する。登山者に注意を呼びかける白い看板が良い目印だ。車中から見た扇沢や鹿島槍の白銀が目眩しく本

日の好天が期待される。登山計画書をポストに入れ、楨有恒氏の作成した「おばの碑」の脇を通り、堰堤の右側からいきなりの急坂が始まる。

ピーク7の稜線からは先は、積雪はあるもののトレースも付いている。11時までにはピーク3先のテント場に辿り着ければ、登り3時間、下り2時間の合計5時間で爺ヶ岳を往復出来るはずだ。3人とも期待に胸を膨らませ歩みを進めるが、樹林帯の中、所によっては膝まで雪にもぐるラッセルでスピードは上がらない。

ようやく樹林帯を抜け1767mのピーク4に辿り着く。広い雪面の先、爺ヶ岳の勇姿や鹿島槍の稜線が実に見事だ。この東尾根から見ると鹿島槍より爺ヶ岳の方がよっぽど険しく雄大な山容をしている。爺ヶ岳の中峰や北峰から切れ落ちる中央稜、北稜が迫力ある急傾斜で迫っており、あらゆるルンゼが雪崩の巣となっている。最後は北陵に合流する冷尾根は、とても登れないほどの急傾斜に見える。

1978mのピーク3を過ぎ現状地点を確認し、午後1時、平らで疎らな樹林帯にテントを設営する。残念ながら今日中の山頂往復は時間的に断念せざるを得ない。



爺ヶ岳

明日は天候が悪化するらしいので、取敢えず2198mのピーク2まで行ってみようという事になり、空身で出発する。傾斜が50度を超える急斜面を登り、もう少しでピーク2に着きそうな所で、あたりに突然の轟音が鳴り響く。爺ヶ岳中央稜に雪崩が発生した。アイゼンも着けずに登って来たため、不安を感じその場から引返し無事テントに辿り着く。すると男性が2人降りてくる。本日のトレースの恩人なのでお礼を言うと、時間切れでピーク2までで爺ヶ岳登頂を断念し、明日は天気が悪そうなのでこれから下山との事だ。

我々も明日の天気には不安はある。もしかすると明日は下山だけかもしれない。しかしながら、ここから下るだけならそれほど時間はかからないはずだ。

今晚は小田ちゃんのハッシュドビーフに舌鼓を打ち、みんな大満足で眠りに着く。

### 3. 爺ヶ岳中峰の登頂(4月22日)

心配していた天気は昼まで持ち、午後からは雨が降るという。この天気予報を信用し午前3時に起床



P2を登る小田、平

し、満を持して5時20分ピッケル、アイゼンを装着して出発する。ピーク2から先はトレースが途切れ、佐藤を先頭にナイフリッジと急な雪壁の登り下りの雪稜を登行する。横風が強いので3人とも十分注意しながら歩を進めるが、ロープを出すほどの危険箇所はない。2411mのピーク1、矢沢の頭への急斜面は雪が深く、苦しいラッセルとなる。段々息遣いも苦しくなるが、気持ちが途切れないう無理をせずに登り続けるしかない。そして7時40分、無事、P1の爺ヶ岳に続く稜線に到達する。

ここから爺ヶ岳中峰への稜線は気持ちよくクラ





中峰山頂

ストしており、軽快にアイゼンを効かせて急斜面を登り切り、8時50分、見事、2670mの爺ヶ岳中峰に登頂する。バンザーイ、バンザーイ、バンザーイ!!

頂上は強風で長く留まらなかったが、諦めていた冬の剣岳の英姿も見ることが出来、いやが上にも胸の鼓動が高鳴る(電池切れで剣の写真が撮れないのが余りにも無念・・・)。

天候が崩れる前に下山するため早々に下山を開始し、注意しながら中峰の急斜面を下り始める。ピーク1とピーク2間のナイフリッジも無事通過し、11時前にテント場に戻り、テントを撤収する。それにしても雪の爺ヶ岳登頂の余韻がズッシリと心地良い。

3人が揃ってリュックを担いで下山を開始した、ちょうどその時、テント場周辺は真っ白いガスに包まれ小雨も降り出してくる。何というタイミングなのだろう。予報どおり午前中は天気が持ってくれたのだ。

きつと日頃のオダマリ佐藤トリオの行いの良さを、爺ヶ岳も認めてくれたに違いない(ソンな訳ないか・・・)。霧の中に浮かび上がるピーク3の真っ白い山頂は中々神秘的に見える。ピーク3を過ぎ樹林帯に入れば、もう危険箇所はない。ピーク7からの下降点を慎重に確認し午後1時40分無事、鹿島山荘に到着する。

#### 4. 感想

予報は良くなかったが、21日(土)の朝起きると好天に恵まれ、やっぱり山は来てみるものだナ〜とシミジミ実感する。東尾根からの爺ヶ岳は険しく雄大で、鹿島槍に劣らぬ名山、今回は素晴らしいバリエーションルートをトレースし登頂も果たせた。得難い好天に感謝するとともに、万が一の事態も想定した的確な状況判断の必要性も痛感した。

# 白馬岳主稜

平 真里

山域:北アルプス・白馬岳 日程:5月5日(土)~6日(日) メンバー:(L)M、平

## 5月4日 晴れ

05:00二股--06:00猿倉--07:30白馬尻--07:55主稜取付--14:00 P3(泊)

連休後半は大荒れだった。当初予定をずらして4日夜に二股手前で泊。5日朝に猿倉へ移動。明るいなか白馬尻目指して無数にある踏み跡をたどる。白馬尻に着くと、テントがいくつか。青空のもと、主稜に登る人が連なってみえた。

取付きめざして大雪溪をトラバース、稜線まで急登。先行パーティと前後しながら歩く。雪はずたずたに割れていて、前の人に従って迂回しながら登る。

雪が切れたガレ場でひと休み。先行者も後続者もここで休憩している。先に休んでいた2人組がここから撤退していった。団体さんが動かないうちに出発。雪の切れ目に落ちないように、よけながら歩くが、ブロックごと崩れてMさんがふいに落ちた。ちょうど頭が雪面より少し低いくらいで、ザックを先にあげて復旧。

この先も、雪の間を縫って歩く。上り下りを繰り返しながら平坦になったところで休憩。風がやや出てきた。少し先に崩れそうな雪の塊が見えて、進むかどうか迷っている。引き返そうと申し出たのがいけなかったのか、ロープを出して進むことになった。ここで、コンテで登ってきた団体さんに追い抜かれる。

この危険地帯通過後も、木や岩混じりの微妙なところで、時にスタカットにしてまめにロープを使って進む。稜線歩きになったところで、ロープをしまうが、4峰の雪面を登るときに再度ロープをつける。岩混じりの登り始めより、抜けてそのまま雪面を登るときの方が怖かった。

その後もロープでつながって進む。後続の私は、引きずられるようなので、置いてってと頼むがそのまま引っ張られる。その先、テント跡地で大休止。眼下に町の景色が広がっていた。

細い稜線をさらに進む。3峰の手前、稜線上のテント跡地でようやくきょうの行程終わり。まだ日が高い。喜びに満ちてテント設営。まったく寒さは感じられないが、風が強い。しばらくブロックを積む作業にいそしんだ。

次々と人がテント前を通りすぎてゆく。テントに入ってくつろいでいるとすぐにあたりが真っ白になった。3峰に登る人のコールがいつまでも聞こえていた。暗くなってラジオをつけると、雷による雑音が入るが、幸いにして、この近くまでは来なかった。ケータイの電波は入らないので、ラジオの天気予報に耳を傾ける。関東も荒天のようだ。さらに天気予報は、早めの天気の崩れを告げていた。

## 5月6日 曇りのち雨

06:00 P3--07:00白馬岳山頂--07:30頂上宿舎脇--10:00猿倉

3時半か4時ごろだったか、朝起きると星空だった。このぶんなら大丈夫そうだ準備を始めるが、間近で雷が鳴り出す。とても出発できるような状態ではないので、ザックを脇にししばらくテント内で様子を見る。雷鳴が遠ざかり、まわりも明るくなったので、6時すぎにテントを撤収して出発。

3峰の手前ですぐロープをつけ、ビレイをする。登っている人は誰もいない。踏み跡は階段状になっているので、ピッケルを差込み、足をあげる。ステップが高いため、あちこちに足場を探しかつ手をついて登った。2峰は60m。マニュアル通り途中でいったんピッチを切り、スノーバーでセルフビレイをとる。再びビレイの体勢になり、コールがあって登る。本にみる雪底の突破もわからず、足を踏みこんで体を持ち上げると、ふいに視界が開けた。遠く山並みを望み、白馬岳の山頂を初めて踏めたことをありがたかった。登山道をあがってきた人たちが数人。間もなく我々が登ってきた後ろに、単独の男性が現れた。

すぐにも天候が崩れそうなので、頂上小屋を横目に鞍部の岩陰まで下りた。ひと休みして大雪溪の下り。一昨年杓子尾根に登ったときに散々苦労したことが脳裏をよぎる。踏み跡はしっかりあるが、傾斜が急なのに腰が引け、時に後ろ向きになって下る。ぐずぐずしていたら、雨が降り出した。上部には、まだまだ登山者が見える。

雨はだんだん本降りになり慌てて降りる。猿倉に10時ごろ着いて荷を解き、帰路についた。



# 谷川岳一ノ倉沢・烏帽子沢奥壁南稜、中央稜の登攀



案内板

佐藤 正俊

日程:2012年5月27日(日)

メンバー:

A班(南稜登攀):小堀、西本

B班(南稜、中央稜登攀):桜井、佐藤

[行程]

26日:20:00佐藤車で高円寺駅発、土合駅泊

27日:3:00起床、4:15登山指導センター、4:45一ノ倉沢出合、6:00南稜テラス、8:20南稜終了点、9:15南稜テラス、10:45中央稜取付き、14:00中央稜終了点、16:00中央稜取付き、17:30登山指導センター着

## 1. 土合駅まで(5月26日)

ようやく念願のしかも初体験の一ノ倉沢チャレンジの機会が訪れた。そして何とも贅沢な南稜と中央稜の連続登攀だ。しかしながら別の和名倉山行と日程が重なり、土曜日朝出、日帰りでの和名倉に登った後、その晩から谷川岳に出発する事となった。

土曜日は午前3時に起床(睡眠時間は3時間)し、登

山口の一之瀬に6時半に到着する。和名倉山を往復し午後3時に登山口に戻る。歩行時間は約8時間で、その後、一路東京を目指し一目散に車を走らせる。柳沢峠の下りはまるで有料道路のようなアーチ型ブリッジが山ほど新設されており、午後8時の集合に十分間に合う事ができた。

そして高円寺駅北口で西本、桜井、小堀の各氏をピックアップし土合駅を目指す。運転中に都連盟救助隊の田村さんから、寂しいので早く土合駅に来てほしいとメールが入るが、岡さんと登山指導センターで合流する予定なのでどうしたものかと悩んでしまう。

水上インターを降り、セブンイレブンで岡さんに連絡すると指導センターは満員なので、下にいた方がいいとの事だ。これで円満に田村さんと合流できる。各自、お酒とつまみを買込み土合駅で田村さんも交えた楽しい宴会に突入し、24時を回った頃、酒宴は終了となる。



出合からの一ノ倉沢

明日は3時起床で連日の3時間睡眠となるが、きっと天気も良いし何の問題もないと自分自身に言い聞かせ、アッという間に爆睡する。

## 2. 南稜、中央稜の登攀(5月27日)

翌朝、小堀さんに声を掛けられ目を覚ますと3時20分を回っている。慌てて飛び起きるが頭が少々痛い。みんな既に朝食と出発の準備に取り掛かっているの、一目散に荷物を片付け、カレーヌードルとおにぎりを口の中に放り込む。

身支度も早々に車で出発し、登山指導センターで岡さんと合流する。指導センターには救助隊の小川さんや猪俣君も居て朝食を食べていた。昨日、南稜はかなり混雑したとの事なので、さっそく登山届を提出し出合目指して出発する。

4時45分、出合に到着すると一ノ倉沢全体が良く見渡せる。今日は天気も良さそうだ。残雪は道路縁まで2~3mの高さにせり出しており右端から雪渓



テールリッジを歩く桜井

を登りテールリッジを目指して歩き出す。ヒョングリの滝からの懸垂下降も無く、出合から1時間チョットで南稜テラスに到着する。中央稜取付きでは数パーティが準備しており、弓型ハングの手前にも数人いるが、南稜テラスは一番乗りとなる。

まず、桜井、佐藤が登攀を開始する。1ピッチ目は佐藤がリード、2ピッチ目のチムニーは桜井さんがリード、3ピッチ目は佐藤がリードし、難なく草付きに到達しコンティニューアスで草付きを越え、4ピッ



馬ノ背でビレーする堀さん



チ目は桜井さんがリードする。左に回り込んでハングを越えると解説書にあるが、ルートが良く判らず苦戦してハングを超える。フォローの佐藤が小堀さん達への目印にスリングを岩に懸けておく。

5ピッチ目は佐藤がリードするが左の本谷側を登ってしまい桜井さんが馬ノ背リッジに戻ってピッチを切る。次の2ピッチはリッジを登り、最後の垂壁は佐藤がリードする。

年末からの登攀の成果が最近では5～6mのランナウトも普通の壁なら、あまり怖さを感じない。クイックドロワーが1つ足りないので核心手前のビレーは省略し、最後のクイックドロワーを出口の手前にセットし核心の垂壁を越え、南稜はあっけなく終了してしまった。

下りの懸垂下降では桜井さんのロープ操作が素早くとても勉強になる。ダブルロープ2回の懸垂で馬ノ背リッジの基部に到着し、小堀さん達もすぐ上まで降りて来る。

草付きも懸垂で下降し、後続のパーティとすれ違い、それ以降は南稜のルート沿いに懸垂下降し9時15分に南稜テラスに到着する。登り2時間20分、懸垂1時間なので結構いいペースだ。今日の南稜はガラガラでとても快適だった。

本谷を下った小堀、西本ペアの到着を待った後、10時45分に中央稜に取付く。1時間前には7パーティ位が取付き大渋滞だった中央稜も、今は先行1パーティのみだ。

南稜が快調だったので験を担いで佐藤が1ピッチ目をリードし、2ピッチ目の泥のルンゼは桜井さんがリードする。3ピッチ目は佐藤が間違っって人工ルートに入ってしまう懸垂下降で下り、再度凹角フェイスを登り直す。傾斜が強く、薄いフレーク状に張り付いた岩が今にも剥がれそうで思い切り体重を

掛けられない。4ピッチ目のチムニーは桜井さんがリードするが出口でかなり難渋しアブミを使って乗り越す。フォローの佐藤は簡単にフリーで越えられたのでチョット嬉しい。この後は易しい岩場を4ピッチ登り終了点に到達する。

後続が無かったので中央稜を懸垂するが、途中で2回、回収時にロープが岩に引っかかり佐藤が登り直して回収する。中央稜は登り3時間15分、懸垂2時間で下りで苦戦した。

指導センターで待つ、西本ちゃん、小堀さんと17時30分に合流し、湯テルメに入浴後、帰京。21時過ぎに帰宅し祝杯を挙げるが、缶ビール1本で爆睡の佐藤でした・・・。

### 3. 感想

今回は最短のアプローチでテールリッジに到着し好天、無風かつ乾いた岩場の最高の条件で、南稜と中央稜の2本を登攀し、初体験の一ノ倉沢は無事終了した。桜井さんと佐藤のエス・エスコンビのバランスもとても良かったと思う。

クライミング自体は決して難しさを感じなかったが、本当の核心はロープ回収時の7～8mのクライムダウンと南稜テラスから中央稜取付までの下降で本当に怖かった。また頻繁に発生する滝沢スラブの落石の轟音が恐ろしく、本番はやっぱり難しいと痛感した。

# 今シーズンの山スキー（後編）。

北原 浩平



剣が峰山頂にて

## その1 御岳山

日程:4月8日(土)

御岳スキー場 Gondola 乗場 08:05～09:20 ゲレンデ top (標高 2240m) 09:30～スキーデポ (標高 2500m)～13:00 剣が峰山頂  
13:30～14:30 スキー装着 (標高 2500m) 14:50～15:50 Gondola 乗場

メンバー:北原、他1名

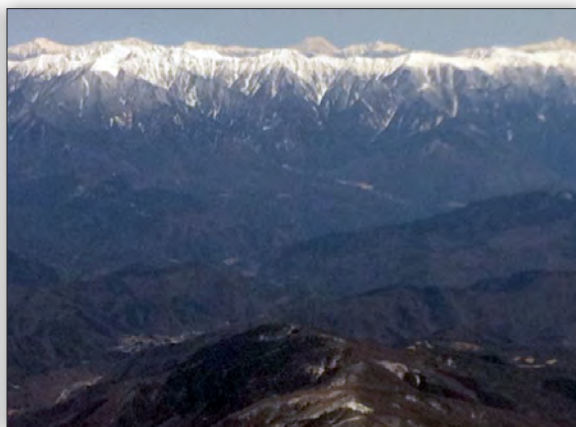
昨年知り合ったbcボーダー三浦くんと2回目のツアー。彼の希望で御岳へ。東京武蔵野を午前3時過ぎに出て、7時半には御岳スキー場へ着く。残念ながらスキー場は営業を先週に終了しているため、ゲレンデをひたすら登る。日差しが強く暑いくらいだがゲレンデトップを越えると風が急に強くなる。先行

パーティーが強風のため撤退してくるのが見える。標高2500mですれ違うと、ガイドらしき人が「今日は無理だよ」と。ここまで来てなんなので、スキーとボードはデポし、山頂を目指すことにする。山頂では絶景。南北中央アルプスから白山、八つ、富士山まで。今シーズンでは久々の晴天に恵まれた。

ところが、なんのことはない、お昼を過ぎると風は弱まり始め、クラストしていた斜面も徐々に柔らかくなってきた。残念、デポするんじゃなかった。でも後の祭り。岩手山以来の2回目のデポでした。標高2500mからの滑りはあっという間。苦労して登ったのに、やはりモットイなかった。でも営業を終了したゲレンデを二人占めして快適に滑り降りてきた。



北アから乗鞍岳

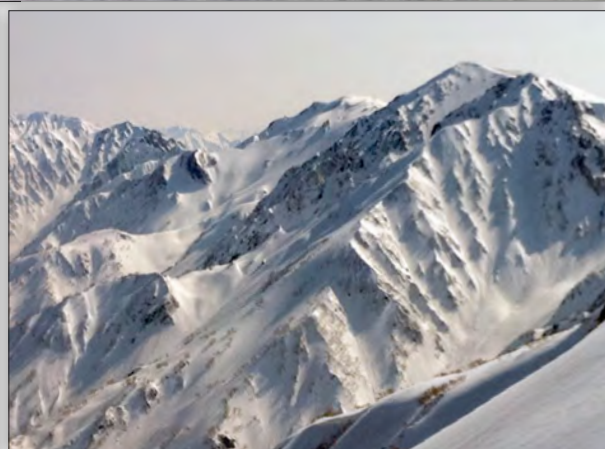


中央アと南アの二段屏風に富士山



ボーダーの三浦くん

池の平にて



後立の絶景の中を滑る

スキーというよりスノーハイク

## その2 中信・池の平

日程:4月14日(土)

地蔵峠～池の平(往復)

メンバー:北原、小田、初鹿

新人小田ちゃんを山スキーに連れ出す計画だが、あいにくの雨、しかも本降り。かぐらをあきらめ、上信越道をさまようが、手近な地蔵峠から池の平に変

## その3 北ア:白馬乗鞍～蓮華温泉

日程:

4月21日(土)

榎池 Gondola 乗場 08:30 → ゲレンデ top 09:20 ~ 白馬乗鞍岳 11:30 ~ 12:30 船越の頭 13:00 ~ 金山沢源頭部滑降 ~ 14:30 船越の頭 15:00 ~ 白馬大池経由 ~ 16:00 蓮華温泉(泊)

4月22日(日)

蓮華温泉 07:20 ~ 振子沢 ~ 天狗原 10:30 ~ 榎池スキー場経由 ~ 11:30 Gondola 乗場

メンバー:北原、他3名

クラシックルートとして有名な蓮華温泉ツアー

もかねてから行きたいルートのひとつ。RSSA(スキールビズム研究会)の森野さんが企画したツアーに参加した。

21日は絶好のコンディションだったので、白馬乗鞍から小蓮華方向へ稜線を登り、午後1時に金山沢源頭部を300mほど滑った。滑り出しは若干急だが、フィルムクラストの柔らかい雪質で、鹿島槍から白馬までの後立山連峰の絶景のなかの滑降で最高だった。

また、白馬大池から蓮華温泉へのクラシックルートも変化に富んでいて楽しめ、蓮華温泉へ直接滑り込めるのも気分が良い。露天風呂は雪倉、朝日岳を眺めながら堪能した。

22日は予想どおりあいにくの天気だったが、午前中が勝負で、振り子沢から天狗原へ登り返し、昼前に梅池へ滑り降りた。天狗原は強風でクラストしたので金山沢は諦め、速攻で下った。梅池に着いた

ら程なく雨が降り出した。間に合って良かった。

#### その4 北ア:白馬杓子尾根～金山沢

日程:

4月29日(日)

猿倉09:00～09:30猿倉台地bc(標高1400m)10:00～12:00双子尾根(標高1825m)～12:30出合(標高1575m)～14:30杓子尾根(標高2050m)～15:00猿倉台地bc

4月30日(月)

猿倉台地bc05:30～猿倉林道(標高1300m)06:00～07:00金山沢(標高1600m)07:20～09:00(標高2250m)09:50～10:50船越の頭11:00～11:40金山沢出合～12:20猿倉台地bc13:00～13:30猿倉

メンバー:北原、山里

先週に引き続き、またまたやって来ました白馬周辺。今回は山ちゃんと猿倉から台地に入る。当初計画は初日に金山沢、翌日に杓子沢であったが、今シーズン初スキーの山ちゃんの気合が入らない。初日は双子尾根と杓子尾根を適当なところまで登って

金山沢の源頭部



白馬大池と小屋も雪の中



雪倉岳



蓮華温泉仙気の湯





ミズナラと山ちゃん



杓子尾根のシュプール



金山沢全景



船越の頭の雷鳥

滑ってくる。これだけでも天気が良いから結構楽しめる。初級者連れだといいかも。

30日はあれこれ悩んだが、金山沢を登りつめて滑ることにする。でも運動不足のせいか山ちゃんのペースがあがらない、途中で一時間ちかく待つが、待った拳句もう登れないって。いいかげんにしないと、一緒に行けなくなるよ、山ちゃん。

結局、ひとりで船越の頭まで登ったら、なんと雷鳥の親子が出迎えてくれた。金山沢は適度な斜度の斜面が続くので、快適に滑り降りることができる。途中の横からのデブリを二箇所迂回し、40分で出合へと戻る。bcを撤収しのんびりと下山した。

## その5 東北・鳥海山

日程:

5月12日(土)

ブルーライン閉鎖により雨のため停滞～鶴泉荘(泊)

5月13日(日)

獅子ヶ鼻取水口(標高520m)05:15～千蛇谷直下(標高1700m)

11:00～12:40新山山頂(標高2236m)～滑降終了(標高1000m)

14:30～16:20取水口

メンバー:北原、他1名

鳥海山は素晴らしい山だった。数年前に月山から眺めた鳥海山の雄姿が目に焼きついていて、今度こそ行こう思い続けその機会が訪れた。RSSA(スキアルピズム研究会)の牧野さんが同行者だ。

前夜行で行き着いたものの12日は雨にたたられ、ブルーラインも積雪のため閉鎖中で、獅子ヶ鼻の取り付きへ偵察に行ったが、冷たい雨に濡れて冷えてしまった。逃げ込んだ日帰り温泉の鶴泉荘で素泊まり3500円で泊まれることがわかり、雨のテント泊をやめ、道の駅鳥海で買い込んだ魚介類を持ち込んでの前夜祭。

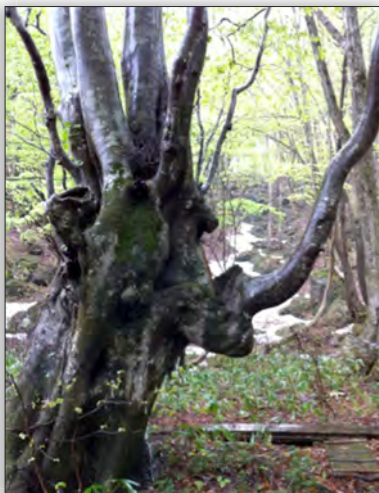
翌朝、午前3時に起きても、東北の太平洋側に低気圧が停滞し、西高東低の冬型の気圧配置で天気良くならない。敗退覚悟で午前5時15分に標高520mの獅子ヶ鼻を出発。ブナ林を藪こぎしながら1時間半ほど、やっとスキーがはける状況になり、細い尾根でスキーを担いで通過。この頃から天気が上から良くなり、標高1000m前後の台地で目指す鳥海山の全容がやっと拝めた。新山北壁も輝いている。

ここはテントbcにしたら最高の場所。鳥海山の全容が望め、ところを選べば日本海も眺められる。ウ

雨の中、探した取り付き



獅子が鼻のブナ

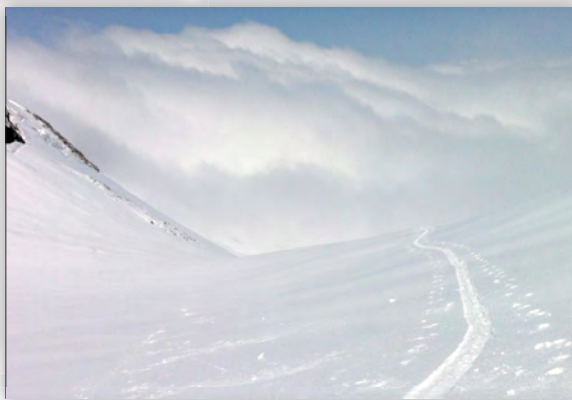


新山北壁とイルカ雲



↑ 広大な鳥海山を登る

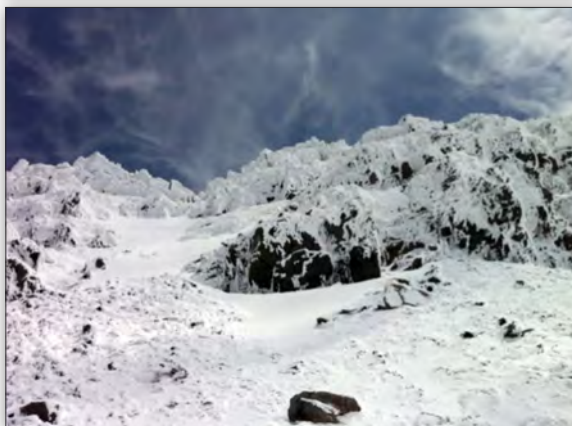
迫り来る雲海 →



サギやクマの足跡もある。素敵な天気の中順調に高度を上げていったが、1700mの千蛇谷直下の谷のなかで、下から雲が上がってきたなと思っていた矢先に、ガスに囲まれ視界が失われた。地図とGPSを頼りに、千蛇谷のなかを蛇行しながら登りきり、12時40分に2236mの新山山頂に到着。ピークに立つと雲の上に出て雲海が見えた。あたりの岩峯は凍てつきすっかり厳冬期の様相。

13時にスキーを履き滑降へ。ご存知のとおり視界のきかない滑降ほど、ツマラナク危険なものはない。7時間もかけて登ったのに泣きたい気分だったが、祈りが通じたのか、一陣の風とともに一瞬視界が開け、この時とばかりに滑り降りる。千蛇谷は昨日の新雪がクラストし柔らかくなった状態で快感が味わえた。ほんとに来て良かった。

それから風の呼吸にあわせて、視界が開けるたびに滑り降り、高度を下げるにつれ天気も回復したが、



凍てついた岩峯

雪質は悪くなった。でも標高1200mあたりまでは大斜面を二人じめ。最後の藪こぎで鳥越川に出てしまい難儀したが、16時20分に出発地点の取水口まで帰りついた。



新山ピークにて



鳥海にシュプール



鳥海山は素敵な山だった。今度は新山北壁を滑りたい。

## その6 富士山

日程:5月19日(土)

富士宮五合目07:10~09:50八合目10:55~13:00九合目半13:10~14:00山頂14:30~日沢滑降~15:30五合目

メンバー:北原、他6名

bcボーダー三浦さんと約束の富士山。さらに職場仲間の国保も連れて行く。彼はスキーは得意だが、山は最近登っていない。はたしてどうなるか。リーダーはRSSAの村石さん、富士山の神様?で、ほかに3名が参加。

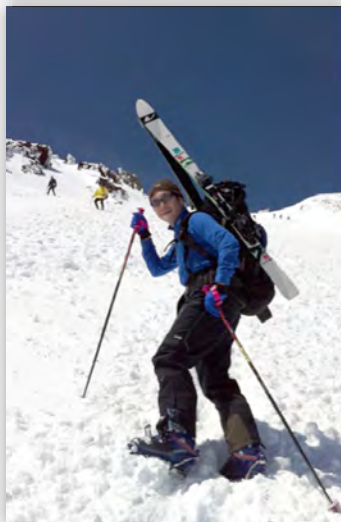
その結果は、国保のペースが遅れ、三浦が少し高度障害ぎみだったが、二人とも山頂まで無事登れた。

滑りのほうはまったく心配なしで、日沢を快適に滑る。雲海に飛び込んでいくようでとても気持ちがいい。

雪の状態も良く、登山口脇までほぼ完全に滑りきることができた。



二人の滑りです



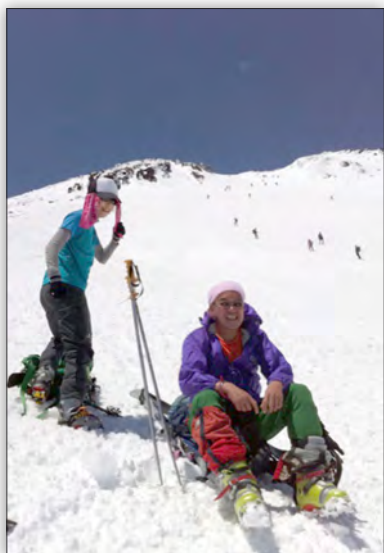
ばててたわりに写真は元気な国保くん



ボーダーの三浦くん、意外と男前



日沢へのドロップポイントにて



九合目半にて



山頂の鳥居にて

## その7 富士山

日程:

5月27日(日)富士宮五合目07:45～09:00七合目09:15～10:45八合目11:10～12:25九合目半12:45～13:30山頂14:00～南大沢滑降～15:00六合目～15:30五合目

メンバー:北原、小田、初鹿

小田ちゃんにちゃんとした山スキーを経験させようと富士山に連れ出した。その結果は、山行報告が書かれないときのための往復書簡(メールですが)である。

日時: 2012年5月28日8:23:21 JST

件名: [Primula \*NEW\* ML]スノーシーズン終了

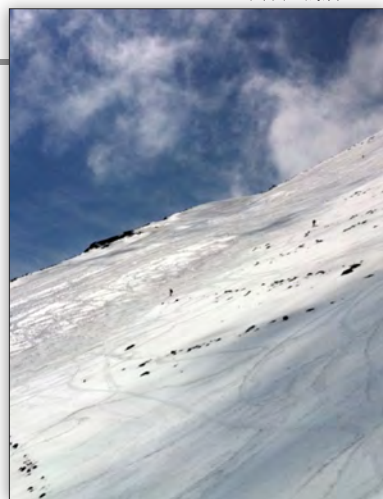
北原です。

昨日の富士山で今シーズンの山スキーを終了します。富士山の小田ちゃんは、高度障害もなくおおむね標準タイムで登頂しました。そして富士宮山頂の鳥居からボーゲンで滑りました。頂上直下の急斜面は横滑りでずりずりと、最初のターンで転げましたが立ち直り、ガッツで滑りきりました。ちょっと感心しました。来シーズン、また行きましょう。

日時: 2012年5月28日8:46:03 JST

件名: 富士山

お誉めの言葉?有難うございます。後半は転げ落ちながら滑った感がありますが怪我もなくホッとしてます。雄大な景色を見ながら楽しみたいならもっと上手でないと辛いですね。(笑)登りも下りもサポート有難うございました!お二人に感謝です.Reiko



山頂直下の大斜面に豆粒のような二人



昼飯ポイントにて



# なほみさんのいつまでやってんだ クライミング日記 ちょっと病気編からの復活編 (3)

水野 奈保美



河童のまね (小川山・仏岩で)

絶賛増量中なプチITバブルもなんとか片付き、固定パートナーも復帰して、ようやく「いつもの」毎週末クライミングが復活した。

しかも、5月末に急遽仕事が決まった。これで安心してクライミングに行けるぞっ。

とはいえ慣れない長距離通勤と戻らぬ筋力、体力…。なほみさんの戦いがはじまった！ピロリロリロリロリ〜 デッデッデッデッデッデッデデ〜 ビーロリーテッテレレ〜 テレテレテッテレレ ペーペレペッペ〜ペレペ〜(ドラクエの戦闘曲風)のである。

## 4月7・8日 城山 with M川

やっとこの土日パートナー難民 M 川氏と城山に行った。M 川氏も冬から春にかけてのリハビリなので最低グレードから順番に登る。

### 4/7土曜日 南壁

- ・5.9 と 5.8. 1 本リードしてみる。
- ・バトルランナーをフォロー (ハング乗越し×)
- ・11a だと思って登ったら 10a だったスラブ (がっくり)
- ・11a のスラブ。？ (お買い得？ルート間違い？素直に喜べず) ※M 川氏も自称スラバー
- ・10a くらいのルート (被りぎみの箇所が登れず引っ張り上げられる)

### 4/8日曜日 ワイルドボア

- ・いつものアップのやつ (1) 5.9
- ・いつものアップのやつ (2) 5.8 リードしてみる怖〜
- ・クロスロード 10a なんとか○
- ・城山物語 5.9 リードしてみた。最後でビビってヌンつかんじまった凹 (ないしょ)
- ・ワイルド X 10a 落ちるかと思ったがこらえる
- ・ストーンフリー 10c 核心であっさり諦めてテ

ンション。

- ・ひよこ岩のしょぼいスラブ 10a だな感じ。リードは2日間で3本。

## 4/15 鷹取 with 桜井、小田。



←クラックを登る小田ちゃん。

今回も桜井さんにいっぱいロープを張ってもらいました。

## 黄金連休小川山 with お師匠。

1 週間キャンプしてクライミングは3日。の〜んびり廻り目、焚き火三昧の日々。すっげー仕事一杯あって (大したことはないのだ



燻製してみるテスト



これがローリング・ストーンだ！



貸切くじら岩

が、すっかり仕事のできない体になってしまったので）出かけるまでが大変だった。

#### 4月30日(月) うち→廻り目平

ゆっくり夕方着。今回は燻製でも作ってみるかってことで中華鍋持ってきた。蓋のかわりにアルミホイルと、安い網をナナズで買う。チップは適当にそのへんの木でいいだろうってことで、ネタ的にはグラム 39 円（安っ！）のトリムネ肉。

#### 5月1日(火)雨

雨だったので、山菜探しに行くがめばしいものではなく（今年は遅いご様子）結局岩場めぐりとなる。レイバック→クレージー→イムジン→ニンジャ→予期プレ→最高ルーフ→ノーリターン、バナナ→キャンプ場方面に戻って分岐岩方面→ローリングストーンに行こうとしたが敗退（迷）

#### 5月2日(水)雨

引きづつき岩場めぐり。昨日敗退したローリングストーンからグリーンペッパーを見に行こうとしたが、遊歩道に出てしまったので面倒になって帰る。

#### 5月3日(木)

雨が沢山ふったので、金峰山川（だったか？）はものすごいことになっていた。朝のうち雨が残ってたけど、晴れてきたので左岸スラブ行って、師匠がトップロープひいたので、わたしもトライする。ついでにジャーマンも登る（最初のやさしいところですべる凹）アルピニストは師匠「覚えれば登れる」私はまったくできず。

#### 5月4日(金)

さて登りに行きますかね、思っていると、突然雨とかヒョウとか降ってきた。夕方、いつものひとたちが来ているので遊びに行く。

#### 5月5日(土)

おーちゃんとうっちさんと妹岩へ行く。あとから師匠も合流して、

- ・手のひら トップロープ
- ・カサブランカのむかいの 5.9 フォロー
- ・カサブランカ トップロープ

カサブランカはやっぱり癒されるわ。トップロープばんざい。

#### 5月6日(日)

クラックはやっぱり疲れるわ〜と gdgd 過ごす。師匠は釣りなど。

#### 5月7日(月)

クジラ岩。

#### 5月8日(火)帰る

毛木平まで行って千曲川を見てきた。

#### 5月13日(日) 小川山 with Oちゃん、うっちさん

NEW な高尾インターから乗ってみるテスト。さらに素晴らしく近くなってしまった高尾山トンネルに1票。できてしまったものは活用しないね。現地でうっちさんと合流



レイバック→妹岩。

- ・レイバック
- ・ジャックと豆の木
- ・カサブランカ

3本ともまだトップロープなら登れるのだが・・・リード出来ぬです。

ジャック豆が意外と登れてしまって嬉しかった(いっぱいいっぱいちゃうん、だったけど)

ていうか、アプローチがいっぱいいっぱいだったのがとても悲しかった。NPギアが重いせいもあるけど・・・せつかく山行ってたのに、2～3月の不摂生でリバウンドしちゃったよ。

### 5月16日(水) なんちゃってトレラン ひる高尾

高尾山口駅までしょぼちゃり、稲荷山コース往復で、2時間ちょい。久しぶりなので結構足にキタ。myTracksでGPSログとってみたよん。

- ・距離: 19.05 km
- ・タイム: 2:17:45
- ・平均ペース: 7:14 min/km
- ・平均スピード: 8.3 km/h
- ・高度上昇値: 520 m

ペースとスピードの違いがよくわからないが・・・

### 5月19・20日 小川 with A山・Gとう・Sわだ様。

5/19(土)

特に表記がないものはトップロープね。  
兄岩～おばさん岩

- ・タジヤン
- ・三日月のピンクリップ
- ・がんばれくまさん×
- ・母子草×
- ・私がおばさんになっても×

5/20(日)

2峰

- ・ダイヤモンドスラブ2ピッチ フォロー
- ・コグレ大サーカス×
- ・ジャックの結婚記念×2 久々のリード○
- ・PTA×2なんとか登れたよん様～スラブ万歳
- ・ちやわんむし×すごくダメ。全然ダメ。

土曜の夜は、木道に宴をもうけ、どこかのガイド様におもしろい話をきいたようなかんじです。  
Sわだ様もネコ好きでネコ話できてよかったです。

### 25月・27 小川山 with Oちゃん

現地でうっちさん、かぶちゃん、みや吉、Oく山 ぼちぼちリードもはじめてみました。

5/26(土)

親指岩

- ・10cのスラブ トップロープワンテン
- ・レイバック ようやくリード○
- ・クレージジャム トップロープ○★

遠藤由佳スクールがいてワイワイ大人数で交代しながらみんなで楽しく登りました。

クレージーにウッチが張ってくれたのでどんだけ登れるか登って見たらノーテンで登れた(上部スラブは時間的な問題もあって割愛)



なんちゃってトレランでもログを取ると楽しい。



レイバックのリードもまだちょっと怖いので肘が上がっている。



カサブランカもリードしてみる（真剣）



不動沢愛好会ルートワイドバージョン



いつもの人達と 仏岩バナナクラック前

トップロープなのでブラマイ 0 点ってトコでしょう。リードすんのはまだかなり勇気が必要。

5/27(日)

妹岩

- ・カサブランカ ×
- ・手のひら ○本日一撃★
- ・カサブランカ ○
- ・カサブランカ トップロープ○

癒しのカサブランカとなるまではまだ時間がかかりそう。手のひらで癒されたのでまあまあの 5 点かな。O ちゃんは昨日のクレージーの疲労を引きずって 3 点。

5月30日(木) 荻窪パンプ。

荻窪パンプに行ったらランナウト風に言う「女ボル強」が始まったので参加してみたら、前にも増して動的ムーブがまるでできなかった。若いねえちゃんたち強すぎでしょ。つかオレ弱すぎ…。「どこのジム行ってるんですか?」「…行っていないです」「外とは違いますからね」と若いお姉さんに慰められました。

6月2日(土) 小川 with Oちゃん

現地でいつもの人達と合流。

- ・レイバック (○) →ノーリターン TR (?) + バナナクラックの出だし TR (?)

6月3日(日)不動 with M川

O ちゃんが帰っちゃったの別口で不動へ。天気が悪かったので雨の当たりにくい愛好会ルートで一日遊びました。

- ・不動沢愛好会ルートワイドバージョン TR○

6月9日(土) (初)ベースキャンプ

みんな行くというので一度行ってみたかったベースキャンプへ。すると、いろへんな知人に会いました。クラックがあったので登ってみたけど、完登ならず。まずくね? (しかもこれが原因で後に膝と肘の調子が悪くなる:泣)

6月10日(日) 小川 with Oちゃん

現地でいつもの人達

- ・レイバック→ノーリターン TR 上部で×1

6月24日(日) 小川 with Oちゃん、

現地で (とってもたくさんの) いつもの人達

- ・レイバック→クレージー TR (終了点直下のマントルでシクってブーーン:ダメでしょ) →ノーリターン下部○

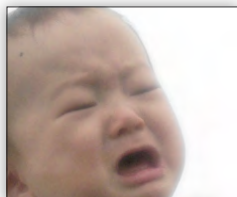
さて次の目標は、夏休みの赤蜘蛛だ! 登れるのか? (やっぱりつづく)



# 山行一覽

2011年3月26日～6月10日

| No.  | 山行日       | 山城   | ルート               | 参加者               | 区分      |
|------|-----------|------|-------------------|-------------------|---------|
| 3047 | 3月26日     | 信越   | 黒斑山               | 初鹿、市瀬             | 雪山      |
| 3048 | 4月1日      | 奥多摩  | 越沢バットレス           | 西本、桜井、他1          | 岩トレ     |
| 3049 | 4月1日      | 中央線  | 滝子山               | 平、他1              | ハイク     |
| 3050 | 4/7～4/8   | ハヶ岳  | 阿弥陀岳北西稜           | 小堀、佐藤             | バリ      |
| 3051 | 4/7～4/8   | 甲信   | 富士山               | 桜井                | 雪山      |
| 3052 | 4/7～4/8   | 日光   | 女峰山               | 平、他1              | 雪山      |
| 3053 | 4月8日      | 中ア   | 御嶽山               | 北原、他1             | 山スキー    |
| 3054 | 4月8日      | 甲信   | 三つ峠               | 西本                | ハイク     |
| 3055 | 4月8日      | 奥多摩  | 越沢バットレス           | 桜井                | 岩トレ     |
| 3056 | 4/8～4/9   | 伊豆   | 城山                | 水野、他1             | フリー     |
| 3057 | 4月14日     | 上越   | 池の平               | 北原、初鹿、小田          | 山スキー    |
| 3058 | 4月15日     | 三浦半島 | 鷹取山               | 桜井、水野、西本、小田       | フリー     |
| 3059 | 4月15日     | 西上州  | 裏妙義               | 佐藤、平、他多           | 搬出訓練    |
| 3060 | 4月16日     | 上越   | 神楽峰               | 初鹿、市瀬             | 山スキー    |
| 3061 | 4/17～4/20 | 上越   | 谷川岳天神尾根           | 岡                 | 撮影山行    |
| 3062 | 4月21日     | 奥武蔵  | 日和田山              | 西本、他1             | 岩トレ     |
| 3063 | 4/21～4/22 | 上越   | 茂倉岳北西尾根           | 小堀、初鹿             | バリ      |
| 3064 | 4/21～4/22 | 北ア   | 爺ヶ岳東尾根            | 佐藤、小田、平           | 雪山      |
| 3065 | 4月21日     | 北ア   | 白馬乗鞍岳             | 北原、他3             | 山スキー    |
| 3066 | 4月22日     | 奥多摩  | 越沢バットレス           | 桜井、西本             | 岩トレ     |
| 3067 | 4/28～4/30 | ハヶ岳  | 川俣尾根/権現岳          | 小堀、初鹿、小田、佐藤       | バリ      |
| 3068 | 4月28日     | 房総   | 富山                | 市瀬、平、他2           | ハイク     |
| 3069 | 4/29～4/30 | 北ア   | 白馬岳杓子尾根/金山沢       | 北原、山里             | 山スキー    |
| 3070 | 4/30～5/8  | 奥秩父  | 小川山               | 水野、他              | フリー     |
| 3071 | 5/3～5/5   | 北ア   | 爺ヶ岳冷尾根（敗退）        | 初鹿、佐藤             | バリ      |
| 3072 | 5/3～5/5   | 北ア   | 鹿島槍ヶ岳             | 桜井                | 雪山      |
| 3073 | 5/4～5/5   | 北ア   | 大遠見山              | 北原、他1             | 雪山      |
| 3074 | 5/5～5/6   | 北ア   | 白馬岳主稜             | 平、他1              | バリ      |
| 3075 | 5/5～5/6   | 甲信   | 三つ峠               | 西本、他1             | 岩トレ     |
| 3076 | 5月5日      | 丹沢   | 大山                | 小田、他1             | ハイク     |
| 3077 | 5月5日      | 奥秩父  | 飯盛山               | 市瀬、他4             | ハイク     |
| 3078 | 5/12～5/13 | 東北   | 鳥海山               | 北原、他1             | 山スキー    |
| 3079 | 5/12～5/13 | 秩父   | 柴崎ロック/二子山中央稜      | 佐藤、西本、他2          | フリー     |
| 3080 | 5/12～5/13 | 奥秩父  | 小川山               | 水野、他2             | フリー     |
| 3081 | 5/12～5/13 | 奥秩父  | 小川山               | 平、他3              | フリー     |
| 3082 | 5月13日     | 奥多摩  | つづら岩              | 桜井、小田             | 岩トレ     |
| 3083 | 5月14日     | 奥多摩  | つづら岩              | 初鹿、市瀬             | 岩トレ     |
| 3084 | 5月16日     | 中央線  | 高尾山（2時間コース）       | 水野                | トレラン    |
| 3085 | 5月19日     | 奥武蔵  | 日和田山              | 佐藤、小田             | 岩トレ     |
| 3086 | 5月19日     | 秩父   | 二子山中央稜            | 平、他1              | フリー     |
| 3087 | 5月19日     | 甲信   | 富士山               | 北原、他6名            | 山スキー    |
| 3088 | 5/19～5/20 | 奥秩父  | 小川山               | 水野、他              | フリー     |
| 3089 | 5月20日     | 奥多摩  | 越沢バットレス           | 小堀、西本、桜井          | 岩トレ     |
| 3090 | 5月20日     | 西上州  | 表妙義               | 佐藤、平、他1           | 縦走      |
| 3091 | 5/24～5/25 | 上越   | 谷川岳天神尾根           | 岡                 | 撮影山行    |
| 3092 | 5月26日     | 奥多摩  | 日向和田カーネルロック       | 平、他2              | フリー     |
| 3093 | 5月26日     | 奥秩父  | 和名倉山              | 佐藤、他多             | 登山      |
| 3094 | 5/26～5/27 | 奥秩父  | 小川山               | 水野、他              | フリー     |
| 3095 | 5月27日     | 上越   | 谷川岳一ノ倉沢南稜/烏帽子岩中央稜 | 小堀、西本、桜井、佐藤       | バリ      |
| 3096 | 5月27日     | 甲信   | 富士山               | 北原、初鹿、小田          | 山スキー    |
| 3097 | 5月27日     | 丹沢   | 葛葉川本谷             | 平、他1              | 沢       |
| 3098 | 6月2日      | 奥秩父  | 小川山               | 西本                | フリー     |
| 3099 | 6月2日      | 奥武蔵  | 日和田山              | 佐藤、小田、他1          | 岩トレ     |
| 3100 | 6月2日      | 丹沢   | 小草平ノ沢             | 平、他3              | 沢       |
| 3101 | 6月2日      | 奥多摩  | 青梅丘陵              | 初鹿                | トレラン    |
| 3102 | 6/2～6/3   | 奥秩父  | 小川山               | 水野、他              | フリー     |
| 3103 | 6月3日      | 中央線  | 高尾山               | 初鹿、市瀬、他3          | ハイク     |
| 3104 | 6月10日     | 西上州  | 子持山獅子岩            | 小堀、西本、佐藤、小田、他1/初鹿 | フリー/ハイク |
| 3105 | 6月10日     | 奥秩父  | 小川山               | 水野、他              | フリー     |
| 3106 | 6月10日     | 丹沢   | 広沢寺               | 平、他3              | 岩トレ     |



少し前までは、ロードレースなどの申し込みも、レース 2.3 ヶ月前に申し込みば参加できたのだが、最近のランニングブームで、半年前に申込締切なんてレースも少なくない。山岳耐久などの人気レースは、申し込み開始と同時にパソコンでエントリーしないと参加できないとか。僕はといえば、そんな人気レースにもう出る気もないが、今日も晩酌をしながらレース検索。酔った勢いで、面白そうなレースにネットエントリーしてしまった。明日からまた後悔とプレッシャーの日々が始まるかな。なんせ明日の朝は素面だからね・・・(；ー一)。(H)



若いクライマーが遠征代欲しさによくやっている、ひと夏の富士山ガイド。あまりにも仕事がないので、知り合いに無理を言って紹介してもらった。さすがにガイドは無理だから、小屋番で 6 月 30 日から 8 月いっぱい山に入ることになっていた。ところが、某事務所で仕事を頼まれたので、富士山はお断りした。タイミング悪いな～。でもこれでやっと人並みなクライミング生活が出来るでしょう！(M 野)

## 編集、後記。

雪山の季節閉幕。慢性化した疲れからは徐々に回復しつつあり、少し安堵。とにかく雪のあるところを登らなければ、というプレッシャーからも解放された。連休明けは小川山のキャンプから。この落差に戸惑いを感じながら、今季は少し沢に登ります。山にも岩にも登れて好都合？(T)



### 原稿の書き方と送り方

#### 1. 入稿テキストについて

- ★プレーンテキスト形式推奨。
- ★文章中の「数字」「アルファベット」「記号」に全角文字を使わないこと。
- ★機種依存文字は使用しない。(下図参照)

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩  
⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳

I II III IV V VI VII VIII IX X  
i ii iii iv v vi vii viii ix x

ミリ キロ セン メー ガラ ト アー ヘ クリ ッ ツ  
カ ロ ド ル セン パー ミ リ ベー  
グ ラ ム セル バ ル ジ

mm cm km mg kg cc m<sup>2</sup>

平 城 “ ” No. K.K. Tel. ① ② ③ ④ ⑤ ⑥

(株)(有)(代)明治大正昭和

≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡

機種依存文字

※これらの記号は Windows 以外では正しく表示されない。

★コースタイムなどの矢印「→」「⇒」などを使用する場合は書式を統一する。

★記号の前後にスペースは入れない。

【重要】本文中に作者の氏名を必ず入れること。

【重要：つうか常識】文章の適当な場所に段落を作り、読みやすく書く。段落頭の 1 文字下げは不要、つうか禁止。(編集時に制御します) `

#### 2. データ送付について

★データのファイル名

【原則】略式年号+月+日+名前(通番号)拡張子

必ず「半角英数字」を使用し、「スペース」「.」「/」「¥」は使用禁止。

★記録が複数日にまたがる場合は入山日。

例) 120105mizuno.txt

★画像データの場合は下記を参照。

例) 120105mizuno01.jpg

120105mizuno02.jpg

#### 3. 写真キャプション

★キャプションは必ず本文中に記述し、可能であれば挿入位置も指定する。その際本文を改行したり、段落の最後に記述するなど、文章に埋まらないように工夫すること。



## Google Webアルバム(Picasa)の使い方

- 1 <http://www.google.co.jp/>にアクセスして、右上の「ログイン」をクリック。



- 2 メールアドレスとパスワードを入力して、ログインボタンをクリック。



- 3 ログインした状態です。メールアドレスが表示されています。



- 4 メニューの「その他」にマウスをあわせるとプルダウンメニューが表示されます。「写真」を選択します。



- 5 アルバムのページです。「アップロード」ボタンをクリックします。



- 6 ブラウザの上にウィンドウが表示されます。「新規アルバムを作成」をクリックします。



- 7 新しいアルバムを作成するウィンドが表示されますから、アルバムのタイトルや日付を適宜入力して、「続行」ボタンをクリックします。このとき、一般公開を避けたほうがいいでしょう。



- 8 ここで、ファイルをアップロードします。「Browse...」ボタンをクリックして、指示に従ってアップロードします。



あとは、適宜いろいろいじってみてください。また、パソコンから直接データを送れるソフトもGoogleが無料で配布しているので、お好みでインストールしてみてください。